

(様式2)

平成 28 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1571700465		
法人名	特定非営利活動法人 心つくし会		
事業所名	グループホームありがとうの家 第一		
所在地	新潟県五泉市村松甲5604番地1		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成29年1月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな里山に囲まれた広い敷地を活かし、畑での野菜作りや、満開の桜の下でのお花見会、焚き火での焼き芋会など季節を楽しめる行事を行っています。敷地内には有料老人ホーム、デイサービスセンター、小規模多機能ホーム、特別養護老人ホーム、学童保育ルームがあり日常的な交流が図れています。また離れた場所にある同法人運営のグループホームや関係法人運営の保育園との茶話会やハロウィン等季節の交流行事の開催や納涼祭、いも煮会といった地域交流行事の開催で子どもたちや地域の方々との交流の機会を設けています。

地元青年会との納涼祭の共催や防災組織作り、地元小、中、高校、支援学校生の総合学習体験や就業体験、ボランティア活動の受け入れ等積極的に行い、また地域のマラソン大会への参加やお祭り、神社参拝など地域との繋がりを大切にしています。今年度、地域住民に向けた「ありがとうカフェ～介護なんでも聞いてみて～」と題した講座を開催し認知症の理解に向けた啓発活動にも取り組んでいます。

ご利用者、ご家族、職員が「ありがとうの家の家族」という認識で、郷土の生活文化や食を大切に彼岸や節句の他、きんぬき一日、お田の神様といった昔ながらの伝承行事や、ちまき作り、梅干作り、沢庵漬けといった郷土料理をご利用者と一緒に伝承しています。ご利用者の希望や好みを取り入れながら、できるだけ地元の米や野菜、旬の食材を使い、半調理品などは使用せず手作りにこだわって食事の充実を図り一緒に食事を楽しんでいます。

毎日の生活に楽しみと張り合いを持っていただけるよう、季節季節を感じられる場所や普段行けない場所への外出や行事を盛り沢山に計画し職員も一緒に楽しみ、賑やかで明るく温かい「家」です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームありがとうの家」は、平成15年に地元の繊維工場の会長が工場の敷地内に開設した。同敷地内にはデイサービスセンター、有料老人ホーム、小規模多機能ホーム、訪問介護事業所があるが、地域や家族のニーズに応じて地域密着型特別養護老人ホームも設立した。この総合的な施設作りにより、利用者の状態変化により住み替えが必要になっても環境を大きく変えることなく対応できるという利点がある。

事業所は法人や地域と連携して行事や防災訓練を行い、利用者と地域とをつなげている。年4回「ありがとう・カフェ～介護何でも聞いて見て～」を開催して介護保険制度や認知症についての講座を行ったり、お茶飲みなどをして地域の方との交流を図っている。事業所の生活では食事に力を入れており、既成品は使用せず、旬のものや地元の食材を活かして手作りにしている。郷土料理を日々の食事に多く取り入れ、食事においても利用者のこれまでの生活が継続できるよう熱心に取り組んでいる。外出の機会も多く、事業所に閉じこもらない生活が支援されている。事業所内では利用者の笑顔や活躍する様子が多く見られた。

また、「家族会」ができており、家族とは利用者、職員と共に「1つ屋根の下の家族」としての協力関係を築いている。職員はコミュニケーションの大切さを意識して利用者や家族、地域との関わりに丁寧に取り組むとともに、職員間のコミュニケーションも重要視し、事業所が利用者にとってのよい環境となるべくチームワークづくりに努めている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、運営理念である「受容・尊敬・共生」と運営方針を事業所の所々に掲示し、また職員会議や内部研修会において職員全員で確認し共有している。日々、理念を意識し、利用者一人ひとりの個性を尊重した温かい支援を実践している。	毎年、年度末に職員間で理念への取り組みの振り返りを行っており、また、次年度の事業計画や目標を理念に基づいて話し合い作成している。利用者のありのままを受け入れ、尊敬の念を持ち1つ屋根の下の家族として共に生きていくという「受容・尊敬・共生」の理念を日頃の関わりの中で大切に実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、納涼祭と芋煮会の開催、また保育園との交流行事を開催して地域交流や世代間交流の場を設けている。また、地元青年会との合同防災訓練の実施や地元商店街での買い物、外食、地域のイベント(祭り、マラソン大会)への参加等を通して地域との関わりを大切にしている。	近隣に住宅の少ない立地条件ではあるが同法人の他施設や地元の青年会と連携して納涼会などの行事を行ったり、防災訓練を共に行うなど積極的に交流の機会を設けている。事業所向かいの高校のボランティアの受け入れや保育園児の訪問などもある。日常的にも散歩や買い物で地域に出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元青年会との防災組織、地元の小・中・高校、支援学校の体験学習や職業体験の受け入れ、ボランティア学生の受け入れを通じ、また「ありがとうカフェ」と題して地域の方々に気軽に参加していただける講座を開催し、認知症の人の理解や支援について発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、利用者やホームの現状、職員の取り組みやサービス実施等について報告している。また会議に納涼祭への参加や防災訓練の見学等を盛り込み幅広く意見や助言をいただき実践につなげている。	会議は2ヶ月に1回、利用者、家族、協力医、市の担当者、地域包括支援センター職員、法人理事の参加で開催している。事業所からは利用者の状況や活動の報告を行い、活発な意見交換がなされている。出された意見は物品の購入や事業計画に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回、市担当者と包括支援センター職員から参加してもらい、事業所の実情や課題も積極的に報告しアドバイスや意見をいただいている。市内6事業所のGH連絡会議にも市担当者が参加し情報交換や話し合いの場があり協力関係を築いている。	市の担当者や地域包括支援センターの職員には、運営推進会議の際や電話等で助言をもらっている。また、行事への参加を通して利用者との交流も図られている。平成23年に市の介護保険担当者の呼びかけで開始し、以降年2回行われている市内の6つのグループホームの管理者会議にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修会やマニュアル周知等により職員は身体拘束について学び、具体的な行為を正しく理解している。日中の玄関の施錠は行わない、第一・第二ユニット間は自由に行き来できる等、行動制止を含め身体拘束を行わないケアを実践している。	内部研修を毎年行い、身体拘束について学ぶ機会を設けている。研修では自分たちの行動を振り返り、職員間で話し合いを行っている。利用者の状況に合わせてケアの工夫を行ったり、外に出かける利用者には付き添うことで行動を制限しないケアを実践している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざされることのないよう注意を払い、防止に努めている	マニュアルや内外研修会により高齢者虐待について学び、内部研修ではチェックリストにより自己点検を行う等、職員は高齢者虐待について理解している。言葉による心理的虐待も見逃さないよう職員間相互に注意を払い虐待防止に努めている。	内部研修で毎年虐待防止法について学んでおり、チェックリストを使用して職員個々でも振り返りを行っている。職員間のコミュニケーションを大切にし、気付いたことを言い合ったり、悩みを相談し一緒に解決するような関係をつくることで、虐待の予防に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度学習会への参加等により概ね理解している。 実際利用されている利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込みに際しての見学や訪問面接時において、不安や疑問点についてお聞きし十分な説明を行っている。契約時においては管理者が十分説明を行い理解納得を得て契約締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族代表の方から参加していたり、年一回の家族会総会・懇親会を開催し利用者や家族の意見や要望を聞いている。また、投書箱や面会カードに記入欄を設けたり、家族の面会時には相談や意見等気軽に言える雰囲気づくりに努めている。	利用者の要望が引き出せるよう日頃の会話を大切にし、食事や外出などについての意見は生活に反映させている。家族からは運営推進会議や家族会、行事参加等の機会に意見を聞いたり、面会時や介護計画作成時に要望の確認を行っている。以前からの家族の要望を受けて、平成27年に法人が特別養護老人ホームを開設した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や各委員会会議等で意見や要望を聞く機会を設け運営に反映させている。また、個人面談やコミュニケーションを図ることにより、個々の意見や提案の汲み取りも行っている。	月1回の職員会議や委員会など、職員の意見を聞く機会がある。また、管理者との個人面談が年に2回あり、必要に応じて理事長に職員の要望をつなげている。研修内容についての要望や就業規則の改善などについては職員の意見が反映されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心を持って意欲的に働けるよう、個人面談の機会に各職員の努力や実績、思いの汲み取りに努めている。また、随時就業規則、賃金の見直し改訂を行い職場環境、労働条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、及び外部研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮している。職員各自の資格やキャリアを考慮して積極的に資格取得を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内6事業所のグループホーム連絡会議の定期開催で情報交換や交流を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接の段階から本人や家族から生活歴や体験したこと、不安や心配なこと、要望等お聞きし、本人が安心して過ごせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接の段階から家族が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、家族が安心して話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成担当者が面接時等に本人や家族から意向や要望をお聞きしている。また、必要に応じ本人、家族の了解を得て前担当ケアマネや相談員等から情報を収集し、必要な支援の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	運営理念である「受容・尊敬・共生」を念頭に、人生の先輩として尊い、喜怒哀楽を共に受け止め、支え合う「ありがとうの家の家族」という関係を築いている。できることは一緒に行い、職員が教わることも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加していただいたり、受診付き添いや外出等できることはしていただき、本人と家族の絆を大切にしている。日々の様子を電話連絡や広報誌、近況報告の手紙などでお伝えしたり、面会時に利用者を交えて会話の場を設け情報を共有して一緒に支える関係作りに努めている。	「1つ屋根の下の家族」という思いで、入居後も家族に利用者の生活を共に支えてもらっている。受診の協力や行事への参加、利用者の要望に応じた外出の支援などをお願いしている。法人の広報誌と事業所の広報誌、個別の便りの3種類のいずれかを毎月家族へ届けて情報共有を図り、本人と家族のつながりが継続できるように支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や近所の方の訪問は温かく迎え入れ、いつでも気持ちよく来ていただけるよう配慮している。馴染みの場所へのドライブ、外食、買い物や、手紙の代筆、携帯電話の操作等交流の支援を行い関係が途切れないよう努めている。	友人や親戚の訪問があり、関係の継続が図られている。手紙の返事や携帯電話の操作など個々に応じて支援している。馴染みの場所について本人や家族から情報収集し、買い物や外食、理容室の利用につなげている。登山好きの方には山に関する番組を見てもらったり、出身地の音楽をかけるなど日常生活の中にも馴染みのものを取り入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルになったり、見守りや声かけ支援をしてくださったり、できないことをフォローしてくださったりという様々な関係性を把握し、その時々に見合った対応で利用者同士が良好な関係で支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も継続的な関わりを必要とする利用者や家族はほとんどいないが、退居後の経過を知らせてくださる家族には温かく接している。また、相談があった場合には、情報提供等協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心とし日々の関わりの中で希望や意向の把握に努め、記録様式やカンファレンス等で共有している。思いや意向を伝えることが困難な方も多いが、ジェスチャーを交えてコミュニケーションを図ったり、表情や動作から思いを汲み取り本人の意向に沿うよう努めている。	利用者と会話の時間を多く持ち、思いや意向を汲み取っている。個人記録に利用者の気になる言動を記録し、カンファレンスで話し合っ職員間で情報共有しながら日々の関わりに活かしている。介護計画にも利用者の思いが反映されている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族に記入をお願いしている情報シートや聞き取り、入居前の担当ケアマネや施設等からの情報提供等で把握に努めている。入居後は日々の関わりの中での会話や面会時のご家族との会話等で得られた情報も記録し共有するよう努めている。	家族に情報シートの記入をお願いし、利用者からも聞き取りをしてこれまでの暮らしを把握している。新しく得た情報も追記し、把握の内容を積み重ねている。職歴や趣味などは事業所の生活で役割や特技として発揮できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティング、連絡簿、生活記録用紙、バイタル測定や排泄記録、また本人の言動等から心身状態、一日の過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは担当職員が毎月行い、基本3ヶ月に1回のカンファレンスにおいてケアのあり方や本人、家族の意向、職員の意見等が介護計画に反映されるよう話し合いを行って介護計画を作成している。	計画作成担当者が利用者と家族の意向を聞いて原案を作り、職員の意見も取り入れながら介護計画を作成している。毎月のモニタリングと3ヶ月に1回のカンファレンスで援助内容や結果について職員間で振り返りを行い、よりよい支援となるよう介護計画作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録や連絡簿、バイタルチェック、排泄記録等に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人運営のデイサービスや特養等の高齢者施設及び保育園や学童保育等の関連施設との交流は喜ばれている。また必要に応じ、それら施設の場所や物品等の有効活用と看護師、運転手等人的サポート等柔軟な支援やサービスの多機能化が行えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の民話研究家から広報誌へ記事の投稿や助言を受けたり、ボランティアや祭り神輿、神主の来所等で昔からの習わしをご利用者とともに継承している。また地元青年会との防災組織や消防署等関係機関の協力により安全確保に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月の定期往診や急変時、体調不良時の往診等嘱託医と連携が図れている。また、本人や家族の希望により入居前からのかかりつけ医に受診継続される方には、健康状態や日常の様子を情報提供し、受診結果についても家族とともに共有して適切な医療を受けられるよう支援している。	希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診の付き添いは家族が基本だが、緊急時の対応や文書や口頭での情報提供など必要な支援を行っている。事業所のかかりつけ医は往診対応があり、何かあれば相談できる協力関係が築かれている。また、同法人他施設の看護師の助言を受けることもできる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職員の配置はないが、同一敷地内の関連施設の看護師が緊急時や必要な時には駆けつけてくれ、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう相談しアドバイスを受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際、安心して治療ができるよう、また不安なく早期に退院できるよう、場合によっては病院に出向き病院関係者と情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の介護、医療体制、重度化した場合にできることとできないこと(現段階では看取りを行っていないこと等)を説明し理解を求めている。できる限りの支援を行っているが、状態の変化が見られた場合早めに家族と相談し、特養への申請等本人に適した支援方針を共有している。	医療体制や、入浴及び食事の対応で事業所としてできることとできないことがあり、基本的には看取りは行わない方針である。しかし、個別のケースに応じて柔軟に対応する姿勢があり、医療の支援を得て看取りを行った事例もある。利用者の状態に応じて話し合いを積み重ね、重度化に備えての準備を進めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを整備し周知している。更に消防署員によるAEDの使い方を含む普通救命講習を全職員が定期的を受講しているが、職員は不安を抱えている。	急変や事故発生時の対応マニュアルが整備されている。全職員が消防署の普通救命講習を3年に2回は受けるしくみになっており、AEDの操作や怪我の対応など訓練を積み重ねている。同法人他施設の看護師から、随時助言や指導を受けている。	計画的に研修を行い、職員は実践を積み重ねている。だが、事故報告書の活用や日頃起こりやすい事故や怪我を想定した小さな学びの機会を繰り返すことにより、更なる実践力の向上と職員自身の安心につなげることを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震を想定した防災訓練をほぼ月1回行っている。地元青年会と防災組織も築いており、夜間消防署立ち会いの下、関係各事業所、青年会合同の防災訓練も行っている。また、訓練を運営推進委員の方々から見学してもらう機会を設け意見や助言を災害対策に活かしている。	年間の防災計画に基づき毎月訓練を実施しており、訓練については地域に回覧して周知を図っている。地元青年団と協力して行う「地域合同防災訓練」や、消防署の立ち会いで夜間想定訓練も行っている。地元青年団には利用者との関わる機会を設けて車椅子の操作を教えるなどして準備をしている。備蓄や物品の確認を行い停電などの有事に活用できている。また、運営推進会議で出された意見を訓練に活かしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念を念頭に、人生の先輩として尊い、人格を尊重した対応を心掛けている。特に排泄や入浴介助時などプライバシーを損ねないよう言葉遣いや対応に注意している。また、一人ひとりに合わせた方言や地元の言い回しと敬語の使い分けに配慮している。	外部研修や法人の合同研修で接遇について学ぶ機会を設けている。職員は年齢等を尊重した関わりと利用者個々の気持ちに配慮した対応を心がけており、排泄支援などでは羞恥心にも配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族のような気軽に何でも言いやすい雰囲気作りに努めているが、思いや希望を表すことが困難な方も多い。日々の何気ない会話から言葉を引き出し、表情から思いや希望を汲み取り、本人の負担にならないように配慮しながら自己決定できるような言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やその日のペースを見極めて、できるだけ一人ひとりの希望に沿ったその人らしい生活ができるよう努めているが、職員の都合(重度な入居者の支援を優先せざるをえない現状がある)で希望に沿えないことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みを考慮し一緒に衣類を買いに行ったり、毎朝着る物も本人と一緒に選んでいる。自身で選択することができない利用者にはその人らしい身だしなみができるよう支援している。散髪の際は本人の希望を理美容師に伝えやすい言葉かけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物や意向を献立に取り入れるようにし、地元の旬の食材と手作りにこだわり利用者と一緒に地域の伝統料理や行事食を取り入れた食事を楽しんでいる。準備や片付けができる利用者は少ないが、できることをできるような支援をしている。	献立に利用者の希望を取り入れ、自然の食材や旬の食材で手作りをしている。利用者の状態や気持ちにより地域の商店や直売所に買い出しに出かけたり、畑での野菜作りや調理、後片付け等で力を発揮してもらっている。時には外食や郷土食の日などの楽しみもあり、職員も共に食事をとりながら楽しい会話でゆったりとした食事時間を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を一人ひとりの体調や状態、習慣に合わせた量と形態で提供し、摂取量のチェックや体重測定で職員は把握、共有している。水分は決まった時間以外にも、好みに合わせ様々な飲み物を用意いつでも好きな時に飲めるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りで一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて職員が仕上げ磨きや歯磨き後の洗口液洗浄、義歯の洗浄等支援している。拒否される利用者には職員が交代したり時間をずらす等して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ紙パンツに頼らないトイレでの排泄支援を念頭に、排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失敗が少なくなることで自信を取り戻し排泄自立できるよう配慮している。	排泄チェック表を活用し、失禁の前にトイレ誘導することで気持ちの良い排泄となるよう支援している。自分の力で排泄できるようトイレ内の環境整備をするなどの配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表や生活習慣で一人ひとりの排便パターンを把握し、自然な排便を促すため飲食物の工夫や適度な運動を働きかける等便秘予防している。場合によっては医師に相談、指示により下剤投与等行い予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は第一、第二ユニット交互と決めさせてもらっているが、決まった日以外でも希望や状態に応じいつでも入浴できるようにしている。安心して入浴が楽しめるよう、言葉かけや順番に配慮し、菖蒲湯や柚子湯、入浴剤等で季節を感じてもらっている。	ユニット間で入浴の日を交互に決めているが、利用者の希望や状態に応じて時間や回数などは臨機応変に対応している。入浴に拒否のある利用者には職員が交替で声かけをするなど工夫をして気分転換を図り、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースの消灯時間はあるが、居室は一人ひとりの生活習慣に合わせて安心して気持ちよく眠れるよう、空調や照明の調節を行っている。昼寝や休息時間についても一人ひとりの状態やペースを尊重して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者台帳(個別ファイル)に閉じられた処方箋で、個々の薬の目的、副作用、用法、容量について職員は把握し理解している。薬や症状の変化があった場合には連絡簿を活用し即座に情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や会話等から本人の喜びや張り合いになることを把握し、無理のない範囲で掃除や洗濯物たたみ等役割を持てるように支援している。また、将棋やカラオケ等気分転換や楽しみを持って日々過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調に配慮しながら、散歩、買い物、戸外での食事やお茶、焼き芋等自然の風に触れる機会を作っている。四季折々の場所へのドライブや行楽、外食等、利用者の希望を取り入れて計画している。一部の利用者は家族の協力で外出や行楽に出かけており、体調やスケジュール調整等配慮している。	散歩や買い物、戸外での食事など、日常的に外に出る機会がある。利用者の馴染みだった食堂で食事をしたり、「海を見たい」といった個々の思いに沿った外出もある。足湯や飛行場、県庁展望台、ファーストフード店など普段行けない場所や遠方にも積極的に出かけるなど、個別や仲間での様々な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭所持や管理を希望される利用者はおられず、紛失等の問題が懸念されるため本人または家族の了解を得て事務所で管理している。本人の希望に応じ職員が同行して買い物等できる支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して家族や友人と交流を図っていただける利用者には、本人や家族の了解を得て操作等の支援をしている。電話をかけたい希望があれば事務所の電話をかけられるよう配慮し、手紙のやり取りは代筆や投函の支援をし継続できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に居心地良く清潔な空間であるよう、こまめに清掃を行っている。また室内温度や湿度を快適に保つよう定期的に換気を行う等配慮している。グリーンカーテンやプランターの花々が屋内から眺められる工夫や、季節の花を活けたり季節ごとの壁面飾りを作成したり季節感や生活感を感じられるよう配慮している。	温度や湿度、換気に気を配り、嫌な臭いのない気持ちの良い空間となるよう環境整備に努めている。プランターのミニトマトやグリーンカーテンで、室内にいても植物の成長や季節の変化など自然に触れることのできる工夫がある。共用スペースには利用者と共に作成した干支の飾りや季節の作品が飾られ、職員や利用者同士の会話の材料ともなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いにテレビを見たり、会話を楽しめるように共有空間にはテレビとソファが設置してある。ソファに座り本を読んだりウトウト居眠りされたりしてゆったりと過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた寝具、タンス、椅子等の家具や好みの装飾品、写真、本等愛着のある物を居室に持ち込んでもらい居心地よく過ごせるよう配置している。	居室には家族の協力を得ながら、タンスや座椅子、写真など利用者の馴染みの物が持ち込まれている。利用者の身体状況の変化で家具の配置換えが必要な際は家族に相談し本人が過ごしやすいように環境を整えている。居室の掃除は利用者の力も借りながら毎日行い、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ、浴室は分かりやすい文字や絵で表示している。動線には手すりの設置や障害物の確認を行い安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				